

図説・ガイド

大分の森林・林業、木材産業の現況

(令和4年度版)

令和6年3月

大分県農林水産部

はじめに

本書は、本県の森林・林業、木材産業の現況及び各種施策の実績について図表を中心にわかりやすく解説したものです。

今後の本県の森林・林業、木材産業の発展のため関係者の皆様方に広くご活用いただければ幸いです。

利用される方々に

1 本書は、県内の私有林を主たる対象とし、下記所属又は団体のデータから作成したものです。

- ・大分県林務各課室及び農林水産研究指導センター林業研究部
- ・公益財団法人森林ネットおおいた
- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター
- ・九州森林管理局
- ・九州農政局 等

2 本書は主として令和4年度末の資料に基づいて作成したもので、年度は会計年度（4月から翌年3月）、年次は暦年の事実を示しております。

3 数字の単位未満は四捨五入することを原則としているため、合計数字と内訳数字の合計が一致しない場合があります。

4 表中の符号は次のとおりです。

- 「 〇 」・・・掲載単位に満たないもの
- 「 — 」・・・該当事実のないもの
- 「・・・」・・・事実不詳、又は資料のないもの

1 本県の森林・林業の主要指標（全国・九州対比）

項 目	単位	全 国	九 州	大 分	全国に おける 順位	九州に おける 順位	資料
総 土 地 面 積	千ha	37,797	4,223	634	22	4	①
森 林 資 源							
森 林 面 積	千ha	25,025	2,667	451	19	4	②
森 林 率	%	67	63	71	18	2	②
民 有 林 面 積	千ha	17,368	2,157	403	17	3	②
人 工 林	〃	7,846	1,150	204	15	3	②
天 然 林	〃	8,796	849	159	19	3	②
無 立 木 地 等	〃	551	86	25	4	1	②
竹 林	〃	175	71	14	3	3	②
国 有 林 面 積	〃	7,657	510	48	20	4	②
民 有 林 人 工 林 蓄 積	千m ³	2,991,761	538,254	111,630	5	2	②
うち、スギ(5条森林)	〃	1,823,896	387,069	86,682	4	2	②
造 林							
造 林 面 積 総 数	ha	23,015	5,998	1,009	5	3	③
うち、スギ	〃	8,207	4,958	889	3	3	③
うち、ヒノキ	〃	2,230	392	59	12	3	③
林 道							
民 有 林 道	km	93,642	13,714	1,950	19	4	③
国 有 林 道	〃	46,365	5,619	474	19	4	③
林 業 経 営							
林 家 数	千戸	690	93	14	21	3	④
林 業 産 出 額	千万円	48,394	11,287	2,268	5	2	⑤
うち、木材生産	〃	26,655	8,251	1,709	3	2	⑤
うち、栽培きのこ類生産	〃	20,916	2,924	541	7	2	⑤
生 産 物							
素 材 生 産 量	千m ³	22,082	5,392	1,198	4	2	⑥
うち、スギ	〃	13,238	4,464	1,018	3	2	⑥
うち、ヒノキ	〃	2,971	768	176	5	2	⑥
製 材 工 場 数	工場	3,778	628	107	12	3	⑥
製 材 品 出 荷 量	千m ³	16,363	4,206	756	6	2	⑥
新 設 住 宅 着 工 数	戸	859,529	88,814	7,009	27	4	⑦
うち、木造数	〃	477,883	50,580	4,168	35	6	⑦
木 造 率	%	55.6	57.0	59.5	35	6	⑦

項 目	単位	全 国	九 州	大 分	全国に おける 順位	九州に おける 順位	資料
特 用 林 産 物							
乾しいたけ生産量	t	2,034	1,463	769	1	1	⑧
生しいたけ生産量	〃	69,532	9,322	1,813	14	3	⑧
えのきたけ生産量	〃	126,321	11,426	2,701	4	2	⑧
竹 材 生 産 量	千束	828	713	28	3	3	⑧
う ち マ ダ ケ	〃	52	30	22	1	1	⑧
木竹炭等生産量	t	17,853	1,395	-	-	-	⑧
森 林 組 合							
森 林 組 合 数	組合	610	76	13	18	3	⑨
森 林 組 合 員 数	千人	1,475	282	44	11	3	⑨
生 産 森 林 組 合 数	組合	2,627	382	83	12	2	⑨
民 有 林 保 安 林 面 積	ha	5,343,671	587,784	122,117	16	2	③
国 有 林 保 安 林 面 積	〃	6,917,122	455,890	43,375	10	4	③

【参考資料一覧】

番号	発 行	資 料 名
①	国土交通省国土地理院	全国都道府県市区町村別面積調(令和4年10月1日現在)
②	林 野 庁	森林資源の現況(令和4年3月31日現在)
③	林 野 庁	2023年 森林・林業統計要覧
④	農林水産省大臣官房統計部	2020年 農林業センサス
⑤	農林水産省大臣官房統計部	令和3年 林業産出額
⑥	農林水産省大臣官房統計部	令和4年 木材統計調査
⑦	国土交通省建設経済統計調査室	令和4年 住宅着工統計
⑧	林 野 庁	令和4年 特用林産基礎資料
⑨	林 野 庁	令和3年度 森林組合統計

注) 九州には沖縄を含まない。

注) 森林資源の現況の民有林面積には、森林法第2条の森林を含む。

目 次

はじめに

本県の森林・林業の主要指標（全国・九州対比）

目次

1 森林資源の現況

(1) 森林面積	1
(2) 森林蓄積	1

2 民有林資源の現況

(1) 樹種別面積	2
(2) 樹種別蓄積	2
(3) スギ、ヒノキ人工林の齢級別面積	3
(4) スギ、ヒノキ人工林蓄積の推移	3

3 林業生産活動

(1) 造林面積の推移	4
(2) 造林樹種の割合	4
(3) 保育実績の推移	5
(4) 素材生産量の推移	6
(5) 木材需給の推移	6
(6) 素材価格の推移	7
(7) 新設住宅着工戸数と木造率の推移	7
(8) 乾しいたけの生産量と価格の推移	8
(9) 生しいたけの生産量と価格の推移	8
(10) しいたけ生産者数の推移	9
(11) 竹材生産量の推移	9
(12) 主な特用林産物の生産量の推移	10

4	担い手の確保	
(1)	森林組合の概要	11
(2)	森林組合の主な事業における事業総利益の推移	11
(3)	林業就業者数の推移	12
(4)	林研グループ数と会員数の推移	12
5	林業生産基盤整備	
(1)	林道開設実績と林道密度の推移	14
(2)	作業道開設実績と密度の推移	14
(3)	高性能林業機械等の保有状況	15
6	森林の保全と活用	
(1)	治山事業実績の推移	16
(2)	保安林面積の推移	16
(3)	主な鳥獣による農林作物被害	17
(4)	県民の森施設利用者数の推移	17

1 森林資源の現況

(1) 森林面積

森林面積は約45万1千haで、総土地面積の71%を占めており、全国平均を上回っている。地域森林計画対象民有林の面積は約40万2千haである。

	全国	大分県
総土地面積(千ha)	37,797	634
森林面積(千ha)	25,025	451 (448)
森林率(%)	67	71

総土地面積：全国都道府県市区町村別面積調（令和4年10月1日）

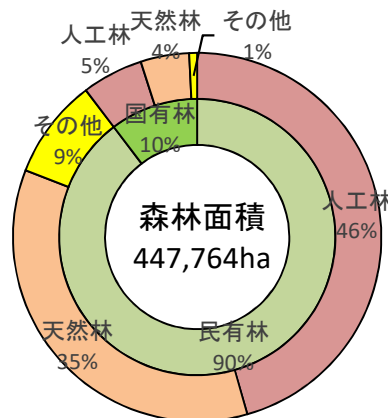
森林面積：森林法第2条第1項に規定する全ての森林

（林野庁「森林資源の現況」令和4年3月31日現在）

森林率：（森林法第2条第1項に規定する全ての森林）÷（総土地面積）

※森林法第2条第1項に規定する森林：地域森林計画に規定する民有林＋その他の森林（市街化区域及び林野庁以外の省庁が所管する森林等）＋林野庁所管国有林

※ただし、括弧内は地域森林計画対象民有林（林務管理課：令和5年3月31日現在）＋林野庁所管国有林（九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」：平成30、令和元、3、4年度）



民有林及び国有林面積(ha)

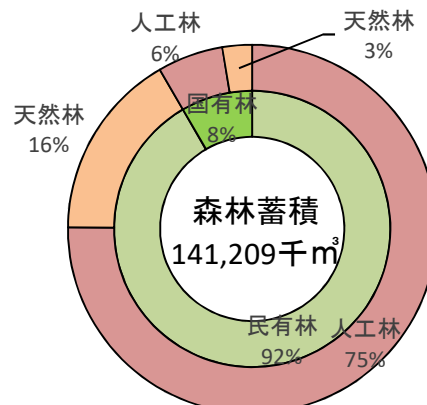
	人工林	天然林	その他	計
民有林	204,251	158,026	39,275	401,551
国有林	23,997	19,162	3,055	46,214
計	228,248	177,188	42,330	447,764

国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成30、令和元、3、4年度）

民有林：林務管理課（令和5年3月31日現在）

(2) 森林蓄積

森林蓄積は約1億4千万 m^3 で、うち民有林における森林蓄積は約1億3千万 m^3 で92%を占める。



民有林及び国有林蓄積(千 m^3)

	人工林	天然林	その他	計
民有林	106,097	23,303	-	129,400
国有林	8,130	3,678	1	11,809
計	114,227	26,981	1	141,209

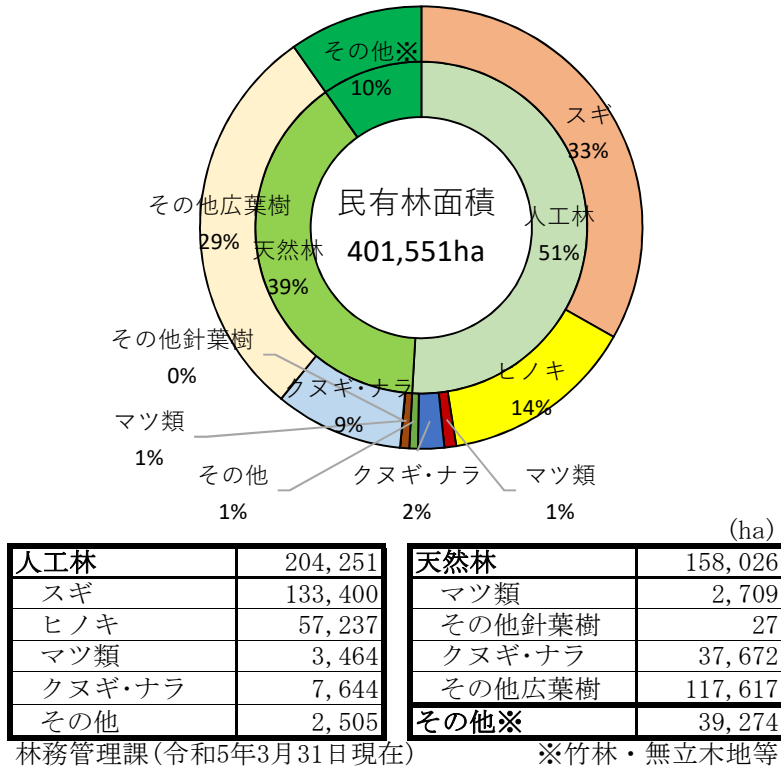
国有林：九州森林管理局「国有林の地域別の森林計画書」（平成30、令和元、3、4年度）

民有林：林務管理課（令和5年3月31日現在）

2 民有林資源の現況

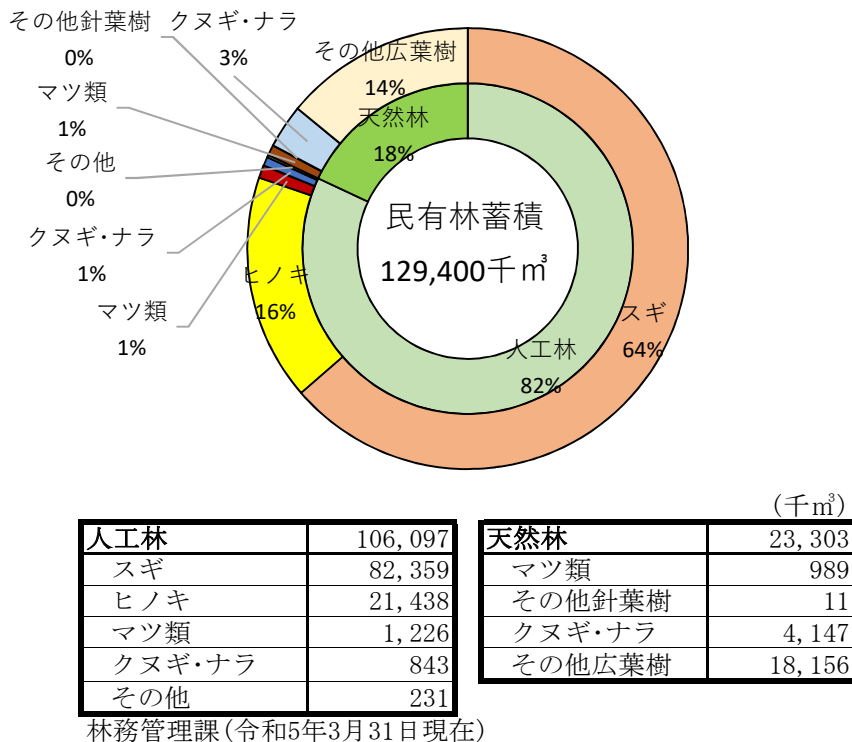
(1) 樹種別面積

民有林のうち、スギの人工林が33%、ヒノキの人工林が14%を占める。また、クヌギ・ナラ林の面積は人工林、天然林を合わせると11%を占める。



(2) 樹種別蓄積

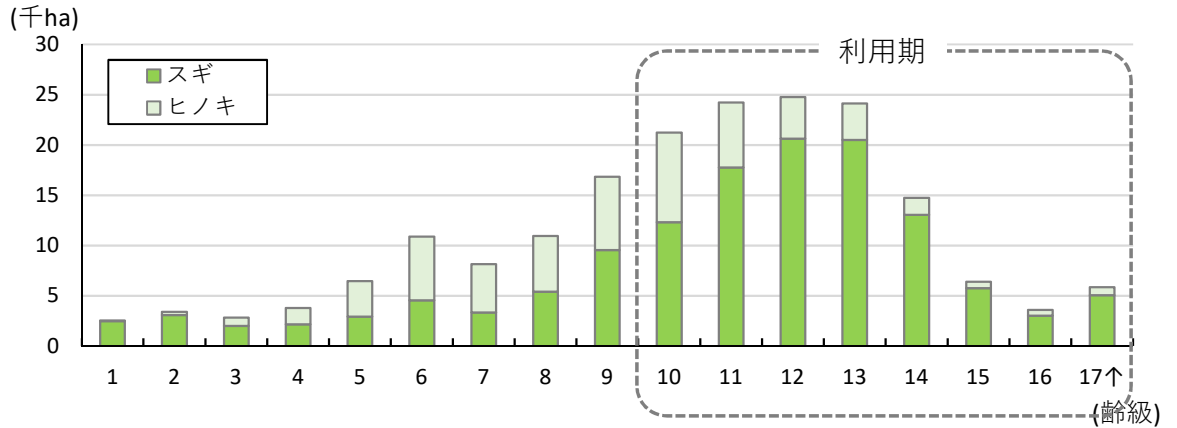
民有林蓄積約1億29百万 m^3 のうち、人工林は約106百万 m^3 で82%を占める。また、スギの蓄積は約82百万 m^3 で、民有林全体の64%を占める。



2 民有林資源の現況

(3) スギ、ヒノキ人工林の齢級別面積

スギ、ヒノキ人工林における利用期面積の割合は66%である。



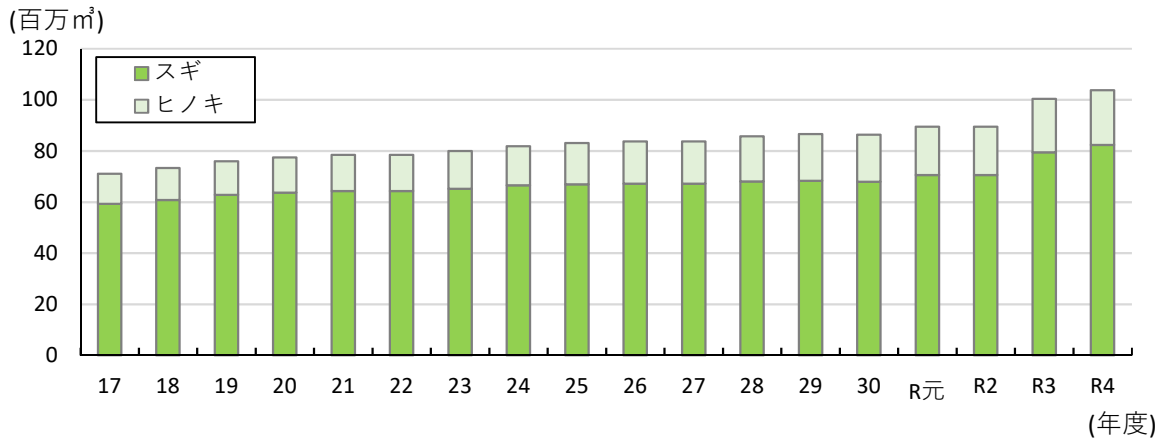
樹種	齢級	1	2	3	4	5	6	7	8	9
スギ		2,474	3,066	2,003	2,135	2,898	4,543	3,335	5,395	9,543
ヒノキ		69	316	817	1,638	3,542	6,344	4,798	5,552	7,296
計		2,543	3,382	2,820	3,774	6,440	10,887	8,133	10,947	16,838

樹種	齢級	10	11	12	13	14	15	16	17以上	計
スギ		12,322	17,750	20,626	20,485	13,030	5,735	3,016	5,045	133,400
ヒノキ		8,906	6,468	4,150	3,641	1,700	664	552	784	57,237
計		21,228	24,218	24,776	24,127	14,730	6,398	3,568	5,829	190,637

林務管理課(令和5年3月31日現在)

(4) スギ、ヒノキ人工林蓄積の推移

民有林のスギ、ヒノキ人工林蓄積は増加傾向で、103,797千 m^3 となっている。



樹種	年度	平成17	18	19	20	21	22	23	24	25
スギ		59,353	60,782	62,868	63,665	64,298	64,298	65,176	66,544	66,921
ヒノキ		11,804	12,584	13,064	13,862	14,189	14,189	14,808	15,278	16,174
計		71,157	73,366	75,932	77,527	78,487	78,487	79,984	81,822	83,095

樹種	年度	26	27	28	29	30	令和元	令和2	令和3	令和4
スギ		67,216	67,216	68,041	68,293	67,949	70,543	70,543	79,533	82,359
ヒノキ		16,511	16,511	17,669	18,338	18,457	19,004	19,004	20,828	21,438
計		83,727	83,727	85,710	86,631	86,406	89,547	89,547	100,361	103,797

林務管理課(令和5年3月31日現在)

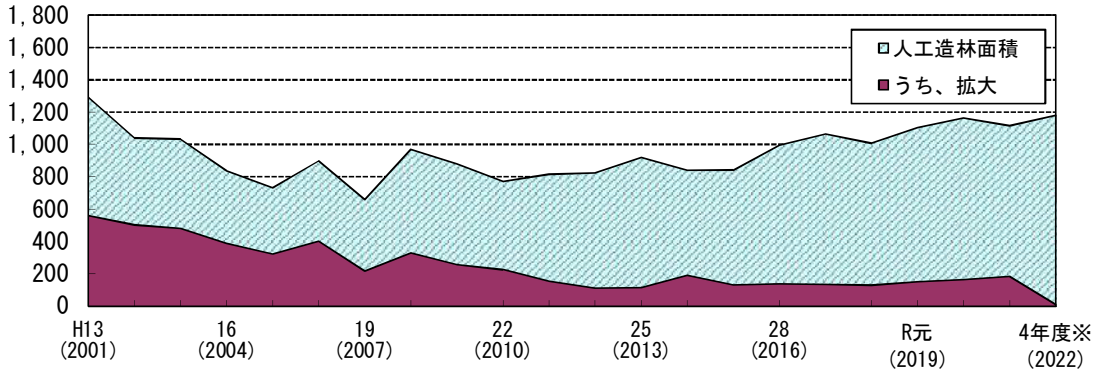
3 林業生産活動

(1) 造林面積の推移

造林面積は減少傾向が続いていたが、近年増加に転じる

人工造林面積は平成3年並びに平成5年の台風被害により復旧に伴う被害地造林が急増したものの、その後は主伐面積が減少し、人工造林面積は減少傾向が続いていた。近年では森林資源が利用期を迎えたことにより、主伐が拡大し、再造林面積は増加傾向にある。

造林面積 (ha)



年次	H13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)
造林面積 (ha)	1,290	1,041	1,034	837	734	898	660	971	880	770	816
うち、拡大 (ha)	560	503	481	390	322	402	217	331	256	226	155
年次	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4年度※ (2022)
造林面積 (ha)	825	920	839	842	997	1,064	1,007	1,105	1,164	1,117	1,179
うち、拡大 (ha)	113	114	191	132	140	134	130	151	165	184	11

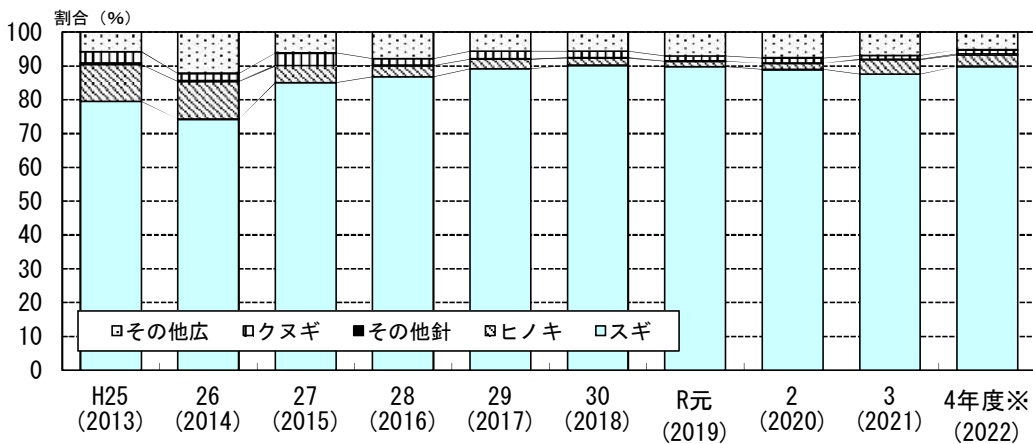
森林整備室 (令和5年3月末現在)

※R4は年度

(2) 造林樹種の割合

スギが造林樹種の90%を占める

令和4年度の造林樹種はスギが最も多く、全体の90%を占める。また、平成25年に全体の11%であったヒノキは、3%にまで減少している。



年次	H25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4年度※ (2022)
スギ (ha)	732	623	716	865	948	908	992	1,036	978	1,059
ヒノキ (ha)	99	93	41	34	30	22	17	22	48	40
その他針 (ha)	4	2	1	1	1	1	1	0	1	3
クヌギ (ha)	32	18	32	20	25	19	16	18	13	14
その他広 (ha)	53	103	52	78	60	57	79	89	77	62

森林整備室 (令和5年3月末現在)

※R4は年度

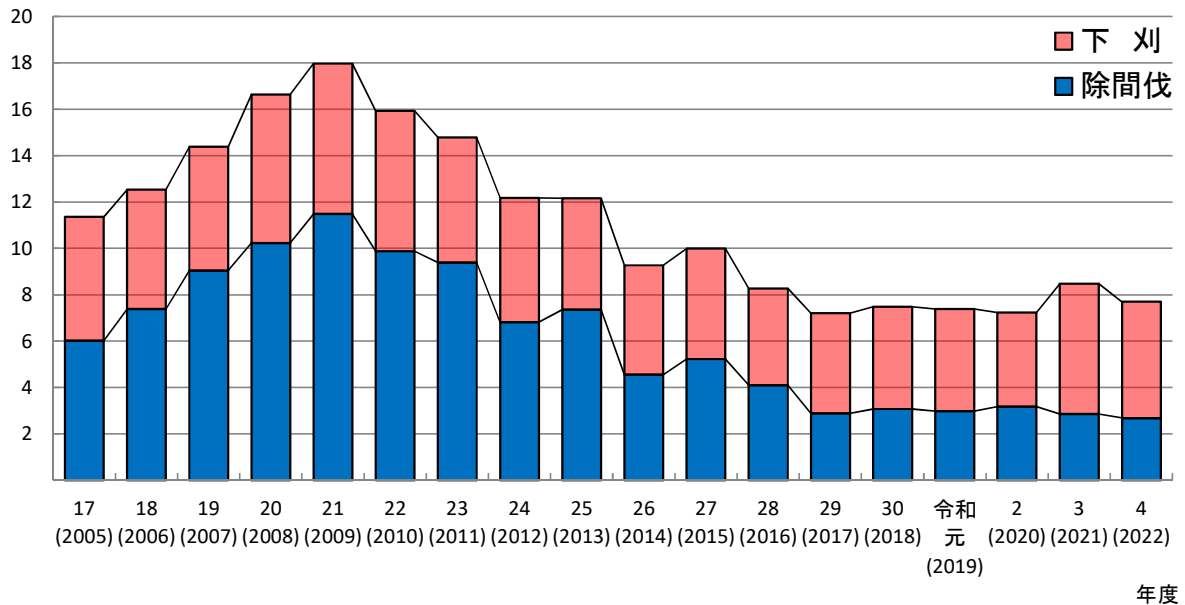
3 林業生産活動

(3) 保育実績の推移

保育実績は減少傾向

平成3年・5年災の下刈等が一段落して以降保育実績はほぼ横ばいで推移していたが、近年は、主伐の増加に伴う除間伐の減少により、保育実績は減少傾向となっている。

面積（千ha）



年 度	17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)
下 刈 (ha)	5,349	5,159	5,334	6,406	6,493	6,045	5,399	5,364	4,806
除 間 伐 (ha)	6,010	7,375	9,043	10,234	11,480	9,879	9,385	6,812	7,357
保 育 計 (ha)	11,359	12,534	14,377	16,640	17,973	15,925	14,784	12,177	12,163
年 度	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
下 刈 (ha)	4,717	4,772	4,163	4,319	4,420	4,413	4,049	5,632	5,013
除 間 伐 (ha)	4,547	5,225	4,106	2,889	3,067	2,978	3,177	2,850	2,685
保 育 計 (ha)	9,264	9,997	8,269	7,208	7,487	7,391	7,226	8,482	7,698

森林整備室（令和5年3月31日現在）

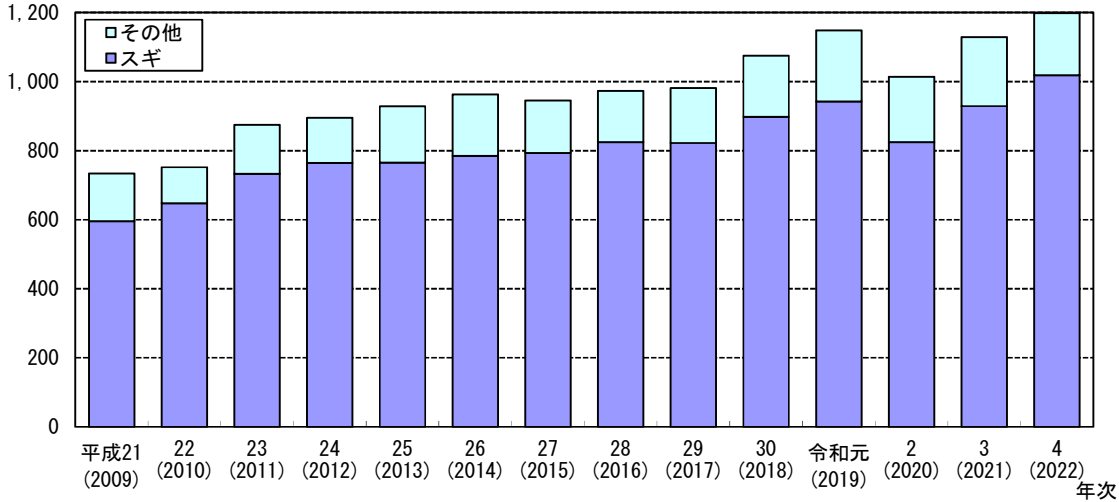
3 林業生産活動

(4) 素材生産量の推移

令和4(2022)年次の素材生産量は1,198千 m^3

素材生産量は、平成6(1994)年次の1,071千 m^3 から平成21(2009)年次の734千 m^3 まで減少傾向だったが、その後の合板・集成材等の国産材需要の増大に伴い、近年は増加傾向である。令和2(2020)年次は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、木材需要が減少したことに伴い、一時的に減少したものの、令和3(2021)年次は、ウッドショックにより、木材需要が高まり増加した。なお、樹種別ではスギが最も多く、全生産量の85%を占めている。

生産量(千 m^3)



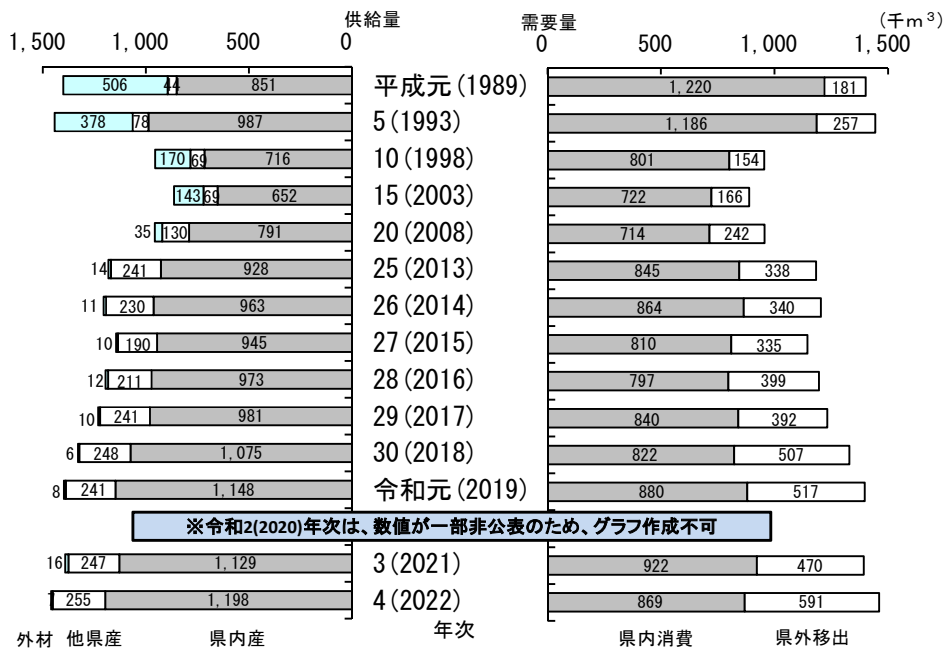
年次	平成21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
スギ (千 m^3)	596	648	733	764	765	785	793	825	822	898	942	824	929	1,018
総数 (千 m^3)	734	752	874	895	928	963	945	973	981	1,075	1,148	1,014	1,129	1,198

農林水産省大臣官房統計部「木材統計」(令和5(2023)年6月30日現在)

(5) 木材需給の推移

令和4(2022)年次需給量は1,460千 m^3 で、県内産の割合は82%

木材需給量は平成6(1994)年次をピークに減少傾向であったが、平成15(2003)年次以降増加傾向にある。需要量に占める県内産の割合はおおよそ横ばいで推移し66%となっている。



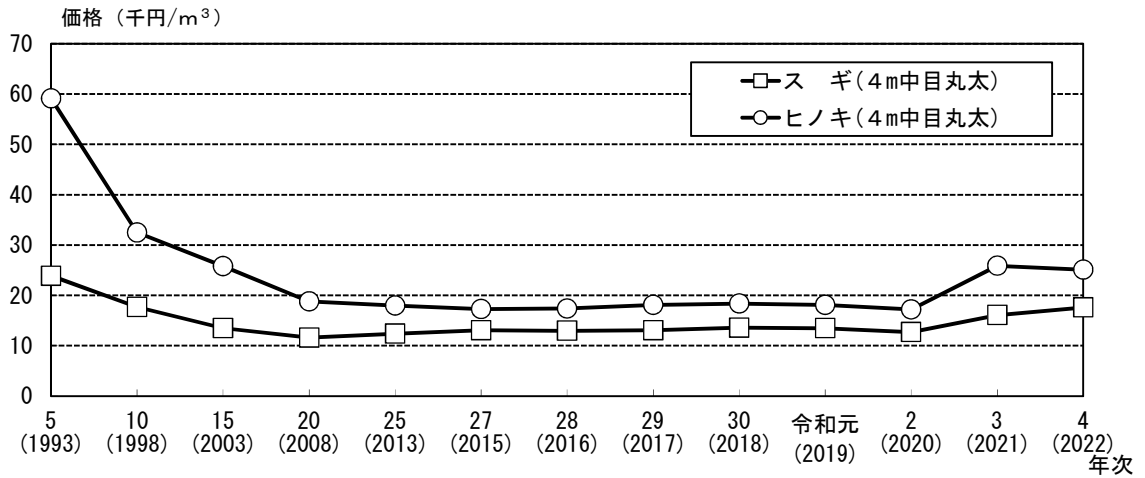
農林水産省大臣官房統計部「木材統計」(令和5(2023)年6月30日現在)

3 林業生産活動

(6) 素材価格の推移

令和4(2022)年次のスギ4m中目丸太素材価格は17,600円/m³

令和4(2022)年次における4m中目丸太の素材価格は、スギが17,600円/m³、ヒノキが25,100円/m³であった。ウッドショックの影響により、スギ、ヒノキともに高止まりしている。



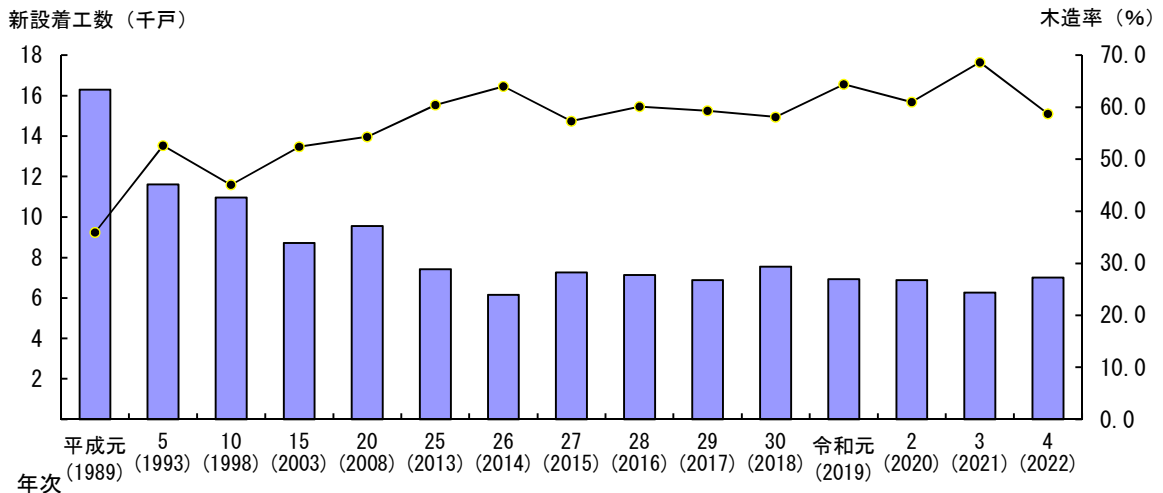
年次	昭和59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	25 (2013)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
スギ (千円/m ³)	26.4	25.9	23.9	17.7	13.5	11.6	12.4	13.1	13.0	13.1	13.6	13.5	12.7	16.1	17.6
ヒノキ (千円/m ³)	55.8	66.0	59.1	32.5	25.8	18.8	18.0	17.3	17.4	18.1	18.4	18.1	17.2	25.9	25.1

農林水産省「木材需給報告書」(令和5(2023)年3月31日現在)

(7) 新設住宅着工戸数と木造率の推移

新設住宅着工戸数は、平成20(2008)年次まで約10千戸で推移していたが、平成21(2009)年次のリーマンショック以降は約7千戸で推移している。

また、木造率については、平成20(2008)年次まで約50%で推移していたが、平成21(2009)年次以降は約60%と高くなっており、令和4(2022)年次は、約60%と例年並みになっている。



年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)
新設住宅着工戸数 (戸)	15,668	10,970	16,297	11,607	10,952	8,718	9,550	5,758	5,691	6,670
木造率 (%)	57.7	49.5	35.9	52.6	45.1	52.4	54.3	62.7	59.2	57.9
年次	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
新設住宅着工戸数 (戸)	7,431	6,165	7,254	7,139	6,889	7,549	6,926	6,892	6,260	7,009
木造率 (%)	60.4	64.0	57.3	60.1	59.3	58.1	64.4	61.0	68.6	58.7

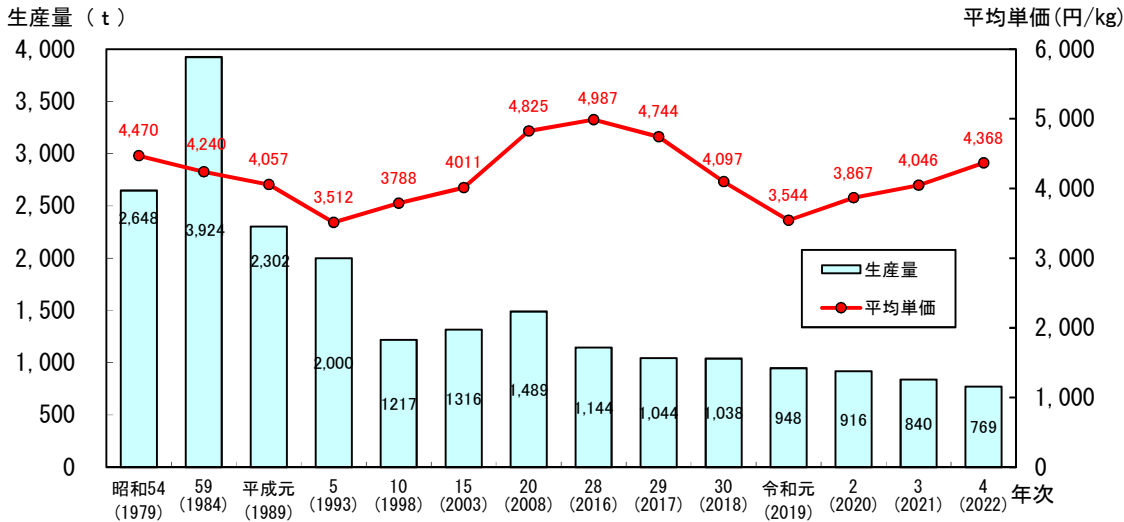
国土交通省「住宅着工統計」(令和5(2023)年1月31日現在)

3 林業生産活動

(8) 乾しいたけの生産量と価格の推移

生産量は769t、平均単価は4,368円/kg

生産者の高齢化などに伴う伏込量の減少により、生産量は前年次より71t減少したが、全国シェア38%（全国1位）となっている。平均単価は前年次を322円上回っている。



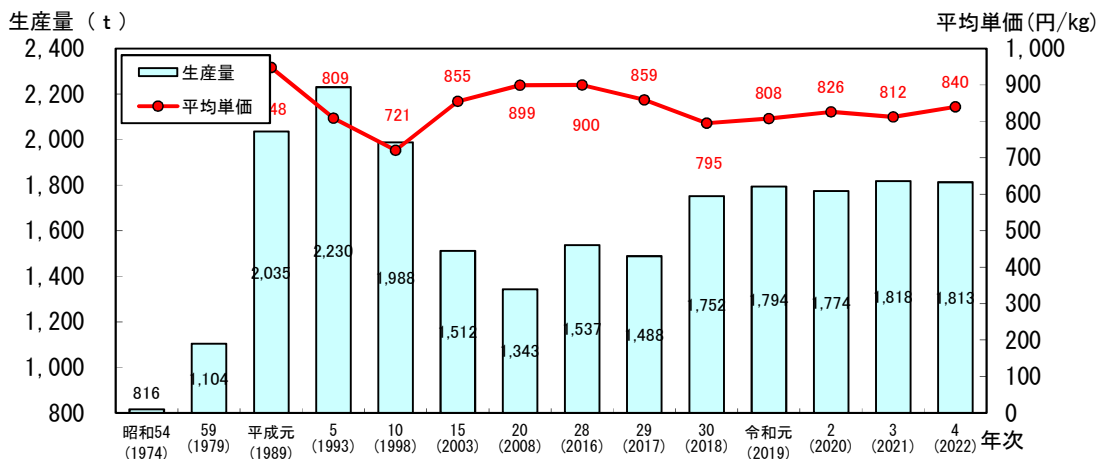
年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)
生産量(t)	2,648	3,924	2,302	2,000	1,217	1,316	1,489
平均単価(円/kg)	4,470	4,240	4,057	3,512	3,788	4,011	4,825
年次	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)	4(2022)
生産量(t)	1,144	1,044	1,038	948	916	840	769
平均単価(円/kg)	4,987	4,744	4,097	3,544	3,867	4,046	4,368

生産量：林産振興室「特用林産物需給表」（令和5年11月30日現在） 平均単価：大分県椎茸農業協同組合「業務報告書」

(9) 生しいたけの生産量と価格の推移

生産量は1,813t、平均単価は840円/kg

菌床生しいたけの生産量は規模拡大により増加したが、原木生しいたけの生産者の高齢化に伴う規模縮小による減少が大きく、生しいたけの生産量は前年次から5t減少した。平均単価は前年次を27円上回っている。



年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)
生産量(t)	816	1,104	2,035	2,230	1,988	1,512	1,343
平均単価(円/kg)	-	-	948	809	721	855	899
年次	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)	4(2022)
生産量(t)	1,537	1,488	1,752	1,794	1,774	1,818	1,813
平均単価(円/kg)	900	859	795	808	826	812	840

生産量：林産振興室「特用林産物需給表」（令和5年11月30日現在）

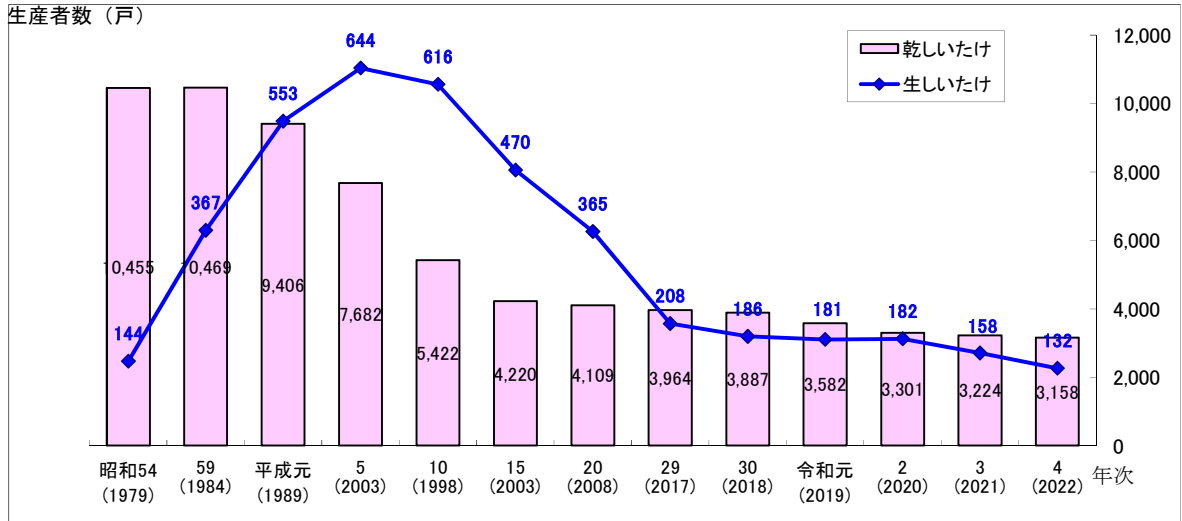
平均単価：大分市公設地方卸売市場「市場年報」

3 林業生産活動

(10) しいたけ生産者数の推移

乾しいたけ生産者は3,158戸、生しいたけ生産者は132戸

乾しいたけ生産者は高齢化が進んでおり、その数も長期的に減少傾向となっている。一方で、令和4年次は19名が新規就業しており、技術の継承を図っている。



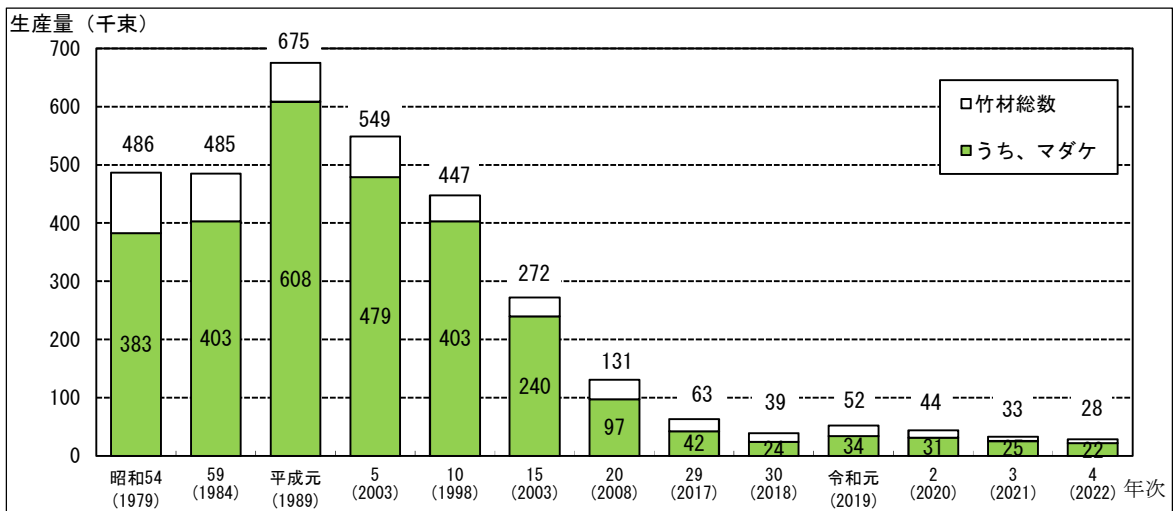
年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
乾しいたけ (戸)	10,455	10,469	9,406	7,682	5,422	4,220	4,109	3,964	3,887	3,582	3,301	3,224	3,158
生しいたけ (戸)	144	367	553	644	616	470	365	208	186	181	182	158	132
	内 (菌床)	-	-	-	(50)	(101)	(91)	(70)	(43)	(47)	(44)	(44)	(40)

林産振興室「特用林産物需給表」(令和5年11月30日現在)

(11) 竹材生産量の推移

竹材の生産量は28.2千束

大分県の竹材生産量は全国第3位であり、特に本県竹材生産量の約78%を占めるマダケの生産量は全国シェア約42%(第1位)となっている。近年はプラスチック等の代替材の進出により需要量が減少したため、生産量は減少している。



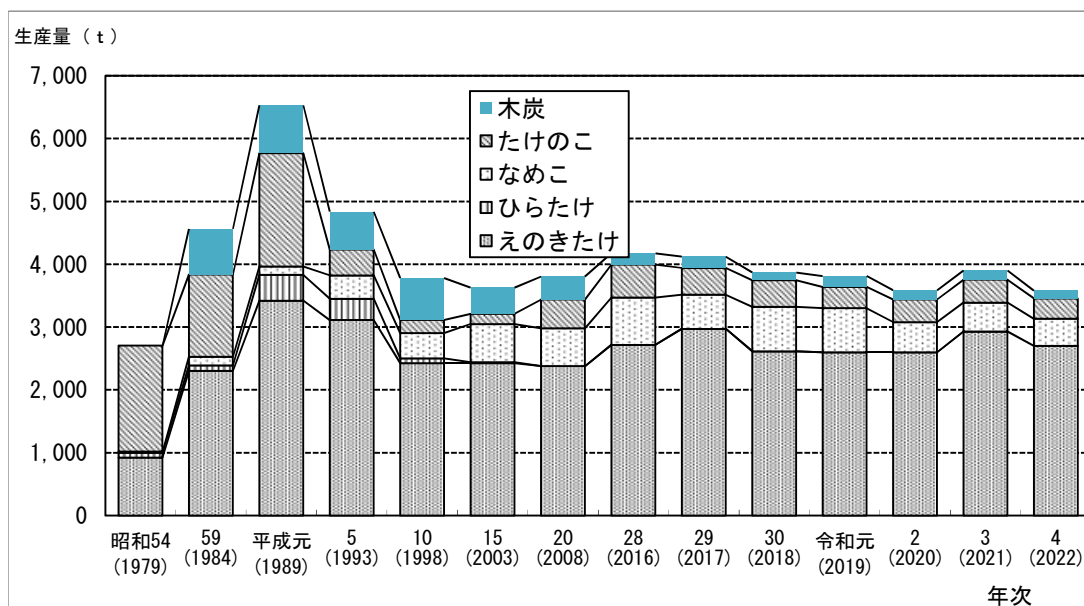
年次	昭和54 (1979)	59 (1984)	平成元 (1989)	5 (1993)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
マダケ (千束)	382.8	403.0	608.3	479.0	403.0	239.8	97.2	42.4	23.7	33.9	31.1	25.4	21.9
竹材総数 (千束)	486.2	484.5	675.3	548.8	447.2	272.3	130.6	63.1	39.0	52.0	44.0	33.0	28.2

林産振興室「特用林産物需給表」(令和5年11月30日現在)

3 林業生産活動

(12) 主な特用林産物の生産量の推移

えのきたけは日田市で大規模に安定した生産が行われている。



年次	昭和54(1979)	59(1984)	平成元(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)
生しいたけ(t)	816	1104	2,035	2,230	1,988	1,512	1,343
えのきたけ(t)	925	2,302	3,422	3,112	2,429	2,426	2,379
ひらたけ(t)	76	87	412	340	73	14	—
なめこ(t)	17	139	129	372	403	610	602
きのこ類 小計(t)	1,834	3,632	5,998	6,055	4,893	4,562	4,324
たけのこ(t)	1,686	1,307	1,805	410	210	162	458
木炭(t)	—	729	762	603	667	417	366
年次	28(2016)	29(2017)	30(2018)	令和元(2019)	2(2020)	3(2021)	4(2022)
生しいたけ(t)	1,537	1,488	1,752	1,794	1,774	1,818	1,813
えのきたけ(t)	2,718	2,973	2,616	2,599	2,599	2,930	2,701
ひらたけ(t)	1	1	1	1	1	1	1
なめこ(t)	753	540	705	701	481	460	431
きのこ類 小計(t)	5,008	5,002	5,074	5,094	4,854	5,209	4,946
たけのこ(t)	526	428	424	340	360	363	325
木炭(t)	179	180	124	173	147	148	125

林産振興室「特用林産物需給表」(令和5年11月30日現在)

4 担い手の確保

(1) 森林組合の概要

地域林業の中核的な担い手として期待される森林組合

森林組合に対するニーズは森林の適正な整備管理はもとより、地域林業の振興、林業労働力の確保などますます多様化しており、中核的担い手としてその果たすべき役割は一層重要なものとなっている。このため、自己資本の充実等経営基盤の強化を図り、森林施業の受託や林産事業の拡大等により事業を推進している。

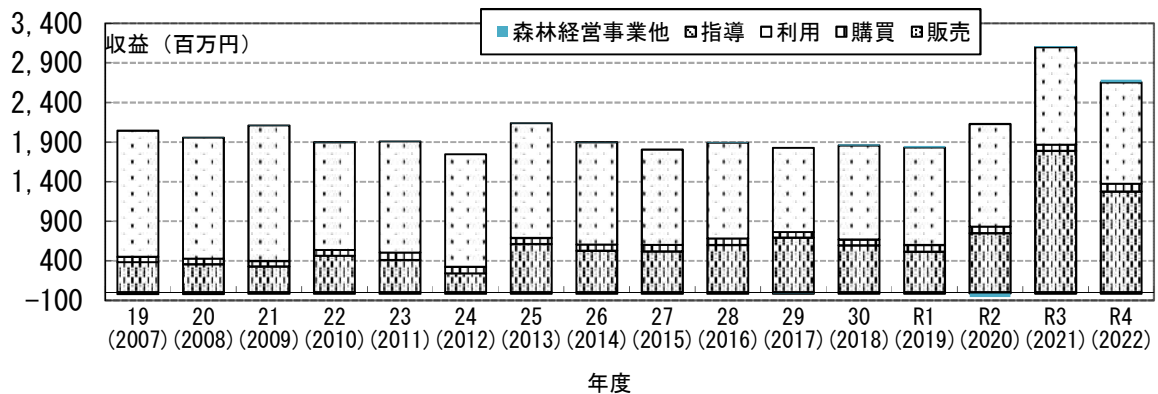
組合名	所在地	常勤役員数 (人)	森林面積 (ha)	組合員 所有面積 (ha)	組合員数 (人)	払込済出資金 (千円)	作業班員数 (人)	設立 年月日
西 高	豊後高田市	9	15,190	11,886	2,377	23,620	8	S55. 4. 10
国 東	国 東 市	12	19,815	13,055	2,688	38,882	14	H 3. 1. 10
別杵速見	杵 築 市	8	21,756	15,440	2,641	75,170	9	H 6. 11. 1
おおいた	由 布 市	12	40,394	31,534	3,784	169,911	5	H 5. 3. 26
臼 津 関	臼 杵 市	5	20,423	10,380	1,990	27,130	0	H 6. 3. 31
佐伯広域	佐 伯 市	40	64,551	45,393	4,658	720,771	119	H 2. 3. 31
大 野 郡	豊後大野市	17	44,047	28,747	3,693	225,765	27	H元. 4. 1
竹 田 市	竹 田 市	15	27,940	21,296	3,244	96,235	5	H元. 10. 2
玖 珠 郡	玖 珠 町	15	35,406	26,847	3,543	135,381	8	S63. 9. 1
日 田 市	日 田 市	24	20,361	18,262	4,094	392,101	25	S41. 6. 1
日 田 郡	日 田 市	24	32,396	29,185	4,643	492,712	16	S53. 10. 1
山国川流域	中 津 市	17	35,460	30,770	4,523	108,775	14	S61. 4. 1
宇佐地区	宇 佐 市	6	23,858	15,341	1,658	68,865	22	H 4. 6. 1

林務管理課「森林組合の概況」(令和5年6月30日現在)

(2) 森林組合の事業総利益の推移

森林整備の取組による経営基盤の強化

森林組合の令和4年度事業総利益は、約27億円で、主伐の増加に伴い販売事業の割合が増加傾向にある。



年 度	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)
販 売	385	358	329	466	409	242	613	527
購 買	66	72	67	70	97	79	76	77
利 用	1,593	1,527	1,714	1,361	1,401	1,425	1,449	1,293
指 導	-19	-19	-18	-18	-16	-16	-15	-16
森林経営事業他	2	1	1	1	1			
合 計	2,026	1,939	2,093	1,881	1,891	1,730	2,122	1,881
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
販 売	518	601	694	597	515	748	1,790	1,276
購 買	84	82	70	72	83	84	77	99
利 用	1,204	1,208	1,064	1,190	1,236	1,298	1,233	1,282
指 導	-18	-17	-16	-14	-13	-12	-13	-15
森林経営事業他		9	-2	14	17	-45	13	32
合 計	1,788	1,884	1,810	1,859	1,838	2,073	3,099	2,674

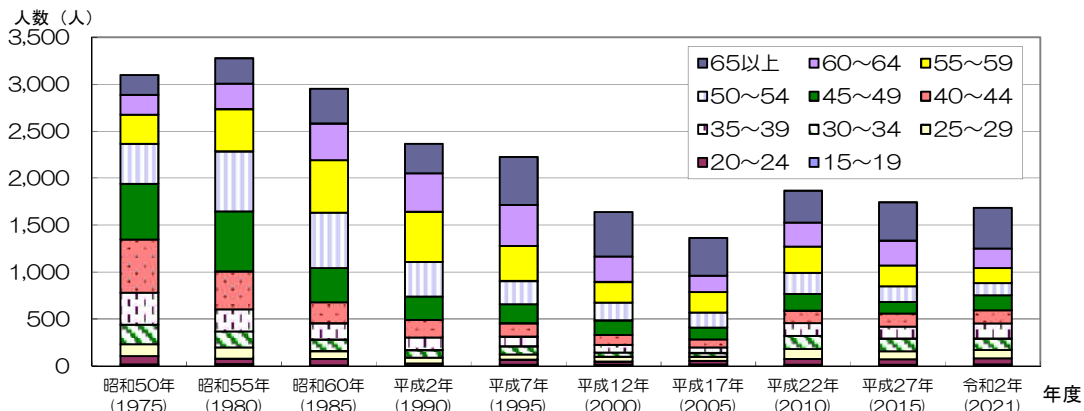
林務管理課「森林組合の概況」(令和5年6月30日現在)

4 担い手の確保

(3) 林業就業者数の推移

令和2年度調査結果の林業就労者数は1,683人

昭和55年以降一貫して減少傾向にあったが、近年持ち直しの傾向。



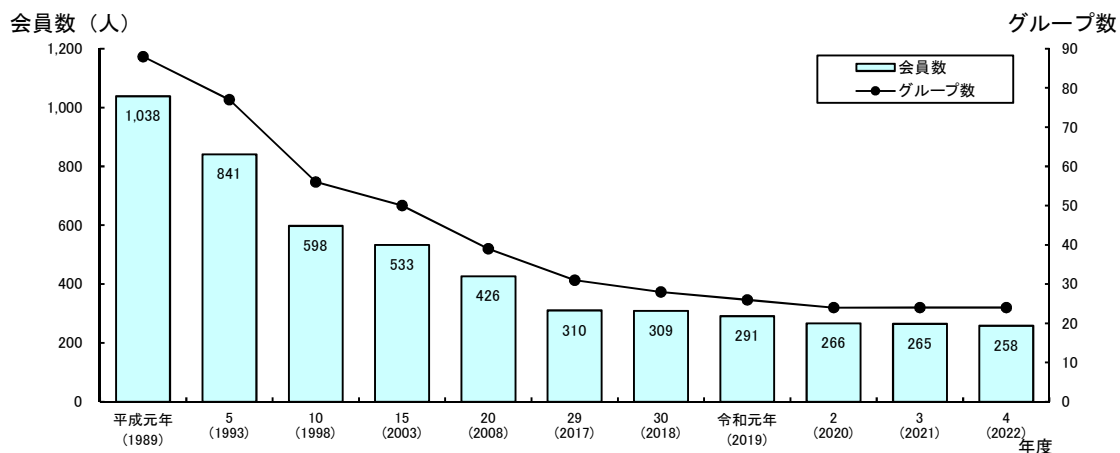
年 度	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65以上	計
昭和50年(1975)	15	89	129	208	339	567	594	423	312	208	212	3,096
昭和55年(1980)	22	54	122	171	235	403	640	637	450	272	269	3,275
昭和60年(1985)	8	66	85	122	174	222	366	590	557	391	370	2,951
平成2年(1990)	3	26	62	79	134	186	249	369	533	411	311	2,363
平成7年(1995)	12	54	56	88	103	143	202	246	374	437	510	2,225
平成12年(2000)	13	33	51	46	82	106	154	189	220	272	471	1,637
平成17年(2005)	16	39	43	41	58	87	124	161	218	174	401	1,362
平成22年(2010)	13	62	108	137	139	129	179	226	278	254	341	1,866
平成27年(2015)	14	57	85	136	128	139	124	165	224	262	409	1,743
令和2年(2021)	16	66	90	120	161	141	159	129	161	206	434	1,683

令和2年度国勢調査

※平成22年度以降は、平成17年度までの調査区分に「林業に関して管理、補助的経済活動を行う事務所の就業者」が追加

(4) 林研グループ数と会員数の推移

昭和37年に地域林業の中核的な担い手の育成を目指して大分県林研グループ連合会が発足したが、以後グループ数・会員数ともに減少している。



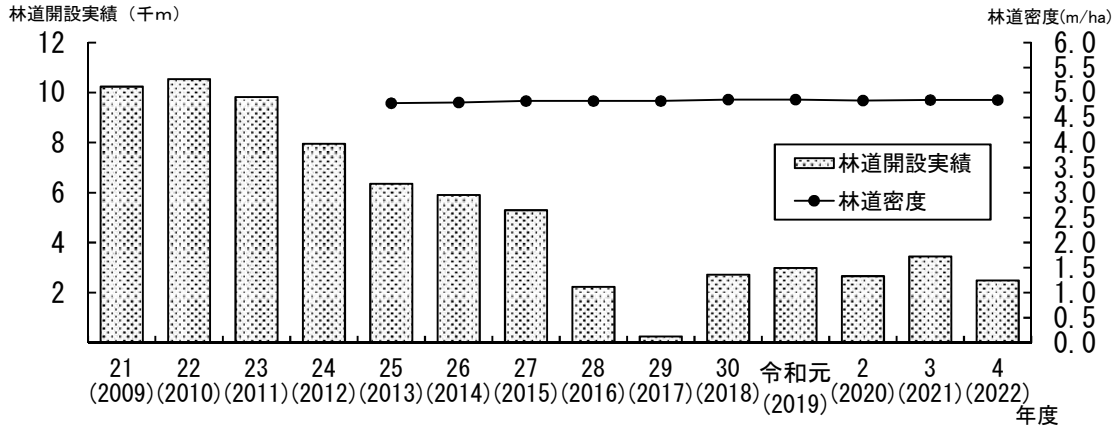
	平成元年(1989)	5(1993)	10(1998)	15(2003)	20(2008)	29(2017)	30(2018)	令和元年(2019)	2(2020)	3(2021)	4(2022)
グループ数	88	77	56	50	39	31	28	26	24	24	24
会員数	1,038	841	598	533	426	310	309	291	266	265	258

林務管理課「林研グループ実態調査」(令和5年3月31日現在)

5 林業生産基盤整備

(1) 林道開設実績と林道密度の推移

令和4年度の開設実績は2,486mで、路網密度は4.85m/haとなる。



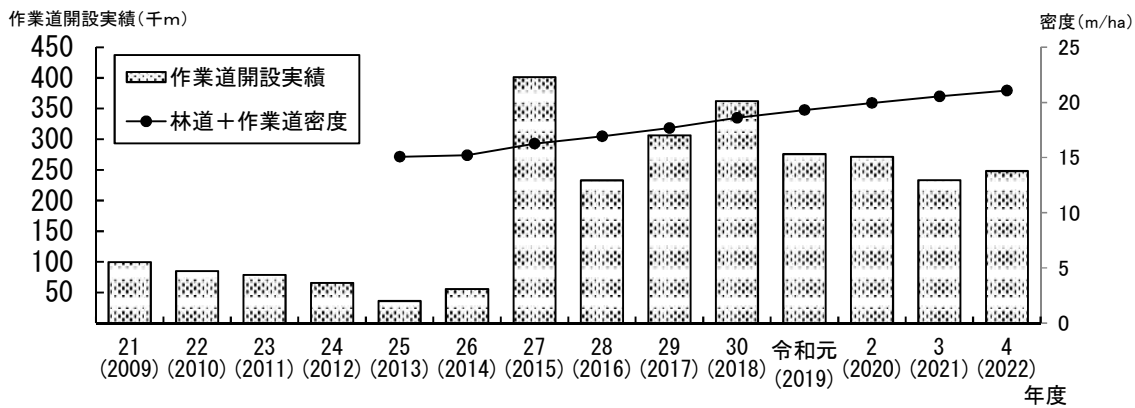
年 度	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)
林道開設実績 (m)	10,238	10,538	9,816	7,949	6,352	5,908	5,295
林道密度 (m/ha)	4.72	4.71	4.75	4.76	4.79	4.80	4.83
年 度	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
林道開設実績 (m)	2,237	250	2,723	2,991	2,663	3,451	2,486
林道密度 (m/ha)	4.83	4.83	4.86	4.86	4.84	4.85	4.85

※林道密度は現況の林道延長による
林務管理課 (令和5年3月31日現在)

(2) 作業道開設実績と密度の推移

林道を補完し、森林施業を効率的にする目的で作業道の整備を進めている

令和4年度末の林道+作業道密度は 21.08 m/haであり漸次増加している。



年 度	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)
作業道開設実績 (m)	99,387	84,836	78,382	65,188	36,053	55,269	401,065
(林道+作業道)密度 (m/ha)	14.34	14.54	14.78	14.93	15.07	15.21	16.26
年 度	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
作業道開設実績 (m)	232,785	306,336	362,069	275,777	271,242	233,291	247,856
(林道+作業道)密度 (m/ha)	16.92	17.68	18.60	19.30	19.95	20.54	21.08

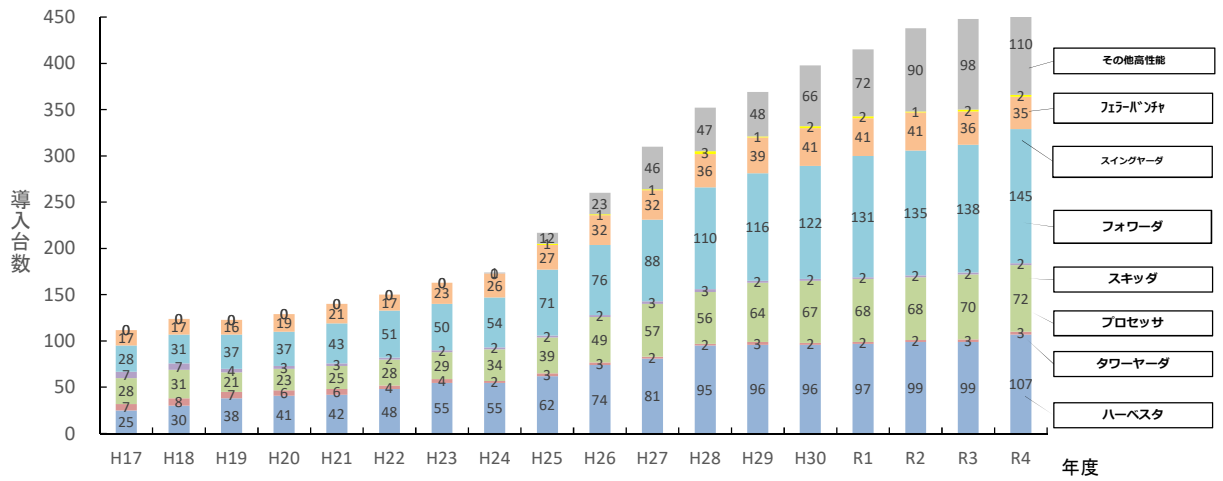
※密度は開設実績の現況
林務管理課 (令和5年3月31日現在)

5 林業生産基盤整備

(3) 高性能林業機械等の保有状況

低コスト・省力化林業を推進

近年急速に機械化が進んでおり、特にハーベスタ・プロセッサなどの造材用の機械やフォワーダの導入が進んでいる。



年 度	平成17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
ハーベスタ	25	30	38	41	42	48	55	55	62	74	81	95	96	96	97	99	99	107
タワーヤード	7	8	7	6	6	4	4	2	3	3	2	2	3	2	2	2	3	3
プロセッサ	28	31	21	23	25	28	29	34	39	49	57	56	64	67	68	68	70	72
スキッド	7	7	4	3	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2
フォワーダ	28	31	37	37	43	51	50	54	71	76	88	110	116	122	131	135	138	145
スイングヤード	17	17	16	19	21	17	23	26	27	32	32	36	39	41	41	41	36	35
フェラーポンチ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	1	2	2	1	2	2
その他高性能機械	0	0	0	0	0	0	0	1	12	23	46	47	48	66	72	90	98	110
保有累計台数	112	124	123	129	140	150	163	174	217	260	310	352	369	398	415	438	448	476

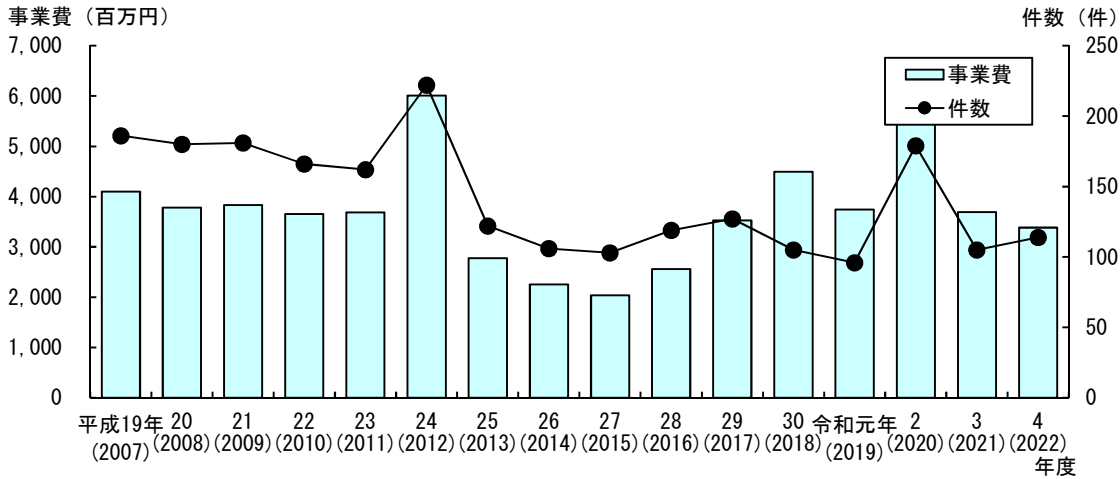
林務管理課 (令和5年3月31日現在)

6 森林の保全と活用

(1) 治山事業実績の推移

令和4(2022)年度治山事業実績は約34億円

本県の山地災害危険地区は令和4(2022)年度末現在6,955箇所、約16,178haである。治山事業は県民の生活環境を保全形成し、安全・安心な暮らしを守るため、山地災害の防止や水源かん養機能の拡充強化を図っている。



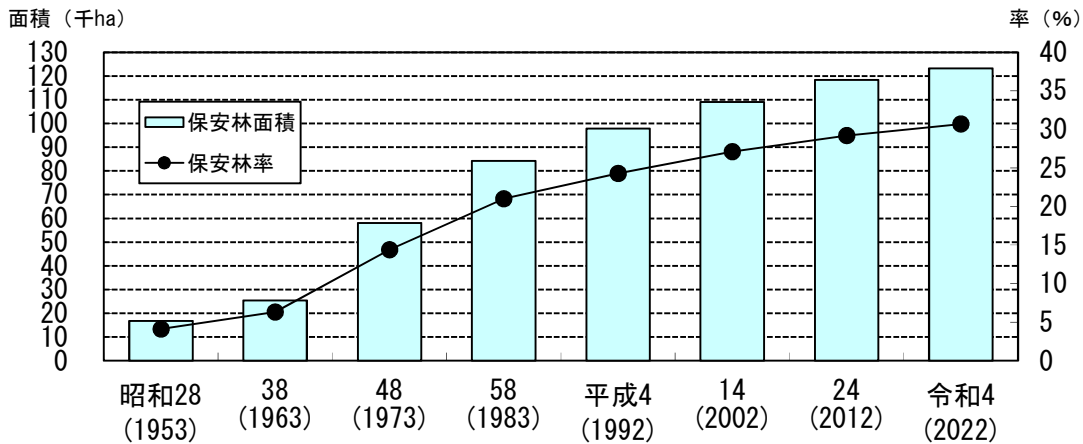
年 度	平成19年 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)
件 数 (件)	186	180	181	166	162	222	122	106
事業費 (百万円)	4,100	3,781	3,832	3,654	3,682	6,007	2,773	2,251
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元年 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
件 数 (件)	103	119	127	105	96	179	105	114
事業費 (百万円)	2,037	2,560	3,530	4,496	3,742	6,095	3,695	3,385

森林保全課 (令和5年3月31日現在)

(2) 保安林面積の推移

保安林指定面積は着実に増加し、令和4年度には約123.3千ha

保安林の指定森林は着実に拡大し、令和4年度に123.3千haとなり、民有林面積の約31%に達した。保安林では森林の保全と適正な施業の実施により、公益的機能の発揮に努めている。

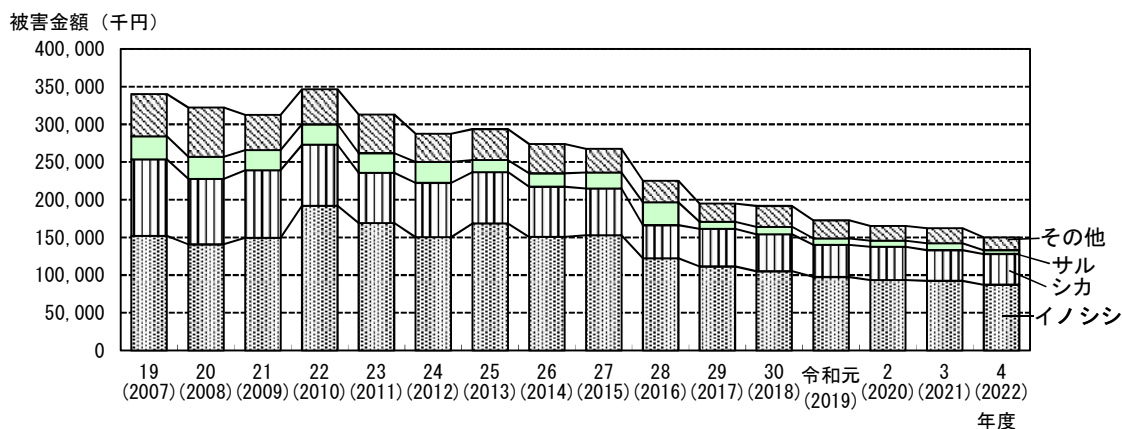


年 度	昭和28 (1953)	38 (1963)	48 (1973)	58 (1983)	平成4 (1992)	14 (2002)	24 (2012)	令和4 (2022)
保安林面積 (千ha)	16.7	25.4	58.1	84.2	97.1	109.1	118.4	123.3
保安林率 (%)	4.1	6.3	14.4	21.0	24.2	27.1	29.2	30.7

森林保全課 (令和5年3月31日現在)

(3) 主な鳥獣による農林作物被害

令和4年度は予防対策等を総合的に取り組んだことにより、過去最少となる1億5千万円となった。(過去最多の被害額はH8年の5億9千万円)



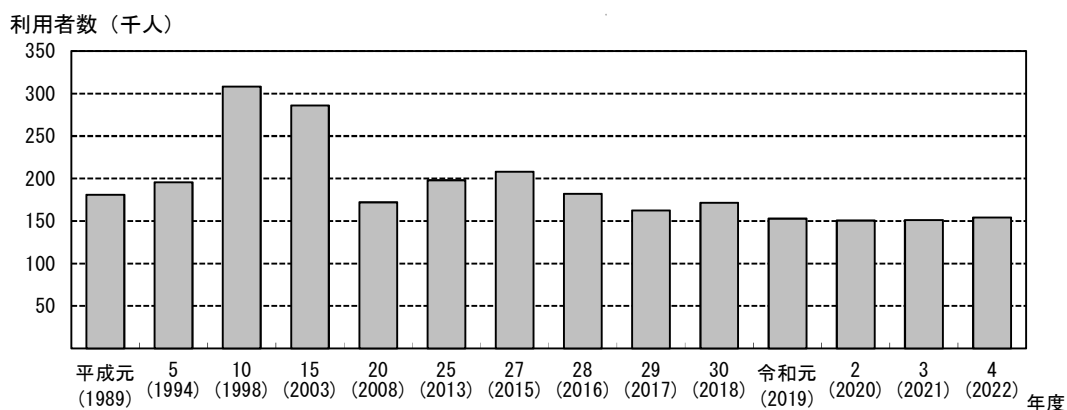
(単位：千円)

年 度	平成19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)
イノシシ	151,704	140,666	149,440	192,121	169,086	150,147	168,496	150,702
シカ	101,820	87,099	89,588	80,635	66,667	71,961	67,999	66,516
サル	30,544	29,340	26,977	27,183	26,061	27,700	15,978	17,712
その他	55,914	65,009	46,510	46,359	51,063	37,667	41,254	38,936
合 計	339,982	322,114	312,515	346,298	312,877	287,475	293,727	273,866
年 度	27 (2015)	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
イノシシ	152,708	122,171	111,376	104,909	97,351	93,252	92,321	87,081
シカ	62,228	43,966	49,897	49,270	42,623	44,306	40,744	40,792
サル	21,084	30,285	9,253	9,913	8,543	7,850	9,236	5,108
その他	31,287	28,678	24,360	27,665	23,959	19,867	19,887	17,081
合 計	267,307	225,100	194,886	191,757	172,476	165,275	162,188	150,062

森との共生推進室 「鳥獣関係統計」 (令和5年3月31日現在)

(4) 県民の森施設利用者数の推移

森林、自然とのふれあいを通し、県民の保健、休養に資するとともに、憩い、学び、体験できる施設として維持・管理を行っている。



年 度	平成元 (1989)	5 (1994)	10 (1998)	15 (2003)	20 (2008)	25 (2013)	27 (2015)
利用者数 (人)	180,817	195,485	308,336	285,758	172,026	197,869	207,743
年 度	28 (2016)	29 (2017)	30 (2018)	令和元 (2019)	2 (2020)	3 (2021)	4 (2022)
利用者数 (人)	181,753	162,354	171,346	152,717	150,379	150,973	154,202

森との共生推進室 (令和5年3月31日現在) (注) 平成18年度より公の施設の利用人員に限定して集計

発行日／ 令和6年3月
発行者／ 大分県農林水産部林務管理課
〒870-8501
大分市大手町3-1-1
TEL097-506-3816